

除草剤グリホサート及びアセト乳酸合成酵素阻害剤耐性トウモロコシの栽培計画書

栽培実験名	除草剤グリホサート及びアセト乳酸合成酵素阻害剤耐性トウモロコシの評価試験
実施会社・法人名	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研究所
公表年月日	平成 19 年 4 月 27 日
<p>1. 栽培実験の目的、概要</p> <p>(1) 目的 除草剤グリホサート及びアセト乳酸合成酵素阻害剤耐性トウモロコシを隔離ほ場で栽培し、生物多様性影響評価を行う上で必要なデータを得るためです。</p> <p>(2) 概要 本栽培実験は独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研究所内の隔離ほ場において、平成 19 年 5 月から平成 20 年 3 月末まで、このトウモロコシと従来のトウモロコシを栽培し、下記の調査を行います。</p> <p>形態及び生育特性 (発芽率、草型、稈長、分げつ数、開花期、雌穂数、収量、越冬性など) 環境に対する影響 (有害物質の産生性の調査) 付与された特性の確認 (除草剤耐性)</p>	
<p>2. 栽培実験に使用する第一種使用規程承認作物</p> <p>(1) 作物の名称 除草剤グリホサート及びアセト乳酸合成酵素阻害剤耐性トウモロコシ (<i>gat4621</i>, <i>zm-hra</i>, <i>Zea mays subsp. mays</i> (L.) Iltis)(DP-098140-6 OECD UI : DP-098140-6)</p> <p>(2) 第一種使用規程の承認取得年月日または第一種使用規程が申請中である場合にはその旨 本栽培実験に用いる除草剤グリホサート及びアセト乳酸合成酵素阻害剤耐性トウモロコシは、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物多様性の確保に関する法律」に基づき、第一種使用 (隔離ほ場試験) の承認申請中です。承認が得られたら、隔離ほ場での栽培実験を開始します。</p>	

3. 栽培実験の全体実施予定期間、栽培開始予定時期及び栽培終了予定期間

(1) 全体実施予定期間

平成 19 年 5 月下旬より平成 20 年 3 月末まで行う予定です。

(2) 栽培開始予定時期及び栽培終了予定時期等

平成 19 年 5 月下旬～6 月上旬 : 播種予定

平成 19 年 6～12 月 : 各種調査予定

平成 19 年 12 月 : 越冬性の調査

平成 20 年 3 月末 : 終了予定

4. 栽培実験を実施する区画の面積及び位置

(1) 面積 : 約 4.5a

(2) 栽培実験区画の位置 : 栃木県那須塩原市千本松 768 圃場 1

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研究所

5. 同種栽培作物との交雑防止措置に関する事項

栽培試験区は、「第一種使用規程承認組換え作物栽培実験指針」による交雑防止措置に従って、花粉の飛散を防止するために開花前に除雄または袋がけを行います。

6. 隔離ほ場での収穫物、実験材料への混入防止措置

組換えトウモロコシを隔離ほ場の外に搬出する際には、こぼれ落ちたりしないように密閉容器に入れ、混入を防ぎます。

播種後に防鳥網をかけて鳥害を防ぎます。

隔離ほ場で使用した機械、器具、靴等は、作業終了後、隔離ほ場内で洗浄すること等により、意図せずに組換えトウモロコシが隔離ほ場の外に持ち出されることを防止します。

7. 栽培終了後の第一種使用規程承認作物の処理方法

収穫した種子は分析に供試し、全ての分析終了後加熱処理して処分します。
収穫後の残りの植物体は速やかに実験区画内で堆肥化します。

8. 栽培実験に係わる情報提供に関する事項

本件の第一種使用規程承認申請に係わる生物多様性評価概要は、環境バイオクリアリングハウスのホームページ (<http://www.bch.biodic.go.jp/>) で公開される予定です。

本実験に係わる連絡先：

デュポン株式会社 バイオテクノロジー事業部

電話番号：03-5521-2476

FAX 番号：03-5521-2388

9. その他

平成 17 年から平成 18 年にかけて、米国の延べ 19 箇所のほ場においてほ場試験を行い生物多様性への影響についての評価を行っています。その結果、組換えダイズと従来品種のダイズとの間で相違は認められませんでした。

我が国においては、平成 18 年 11 月 16 日、農林水産省及び環境省に第一種使用規程の申請を行い、平成 19 年 2 月 26 日に「生物多様性影響評価検討会総合検討会」により「第一種使用規程に従って使用した場合に、生物多様性影響が生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当である」とする検討結果が発表されました。